

普及センターだより 253号

とも 男女にキラめく新時代へ

厳しい時代だからこそ、男女がともに手を取り合って、活気ある農村、働きがいのある楽しい豊かな経営・家庭を作る・・・こんな講演会が開かれました。

この講演会は、成東町農業・農村男女共同参画推進事業により、8月7日のぎくプラザで開催されました。会はフルートとピアノの演奏によるミニコンサートで始まりました。

講演は清水照子さん(全国女性農業経営者会議会長・長野県在住)による「とびだせウーマンパワー・ひろがれマンパワー」。清水さんは、大型稲作農家として「やり方次第でおもしろい」という農



業経営への参画経過を基に、職業意識の必要性について語っていました。また、農業委員・市議会議員として活躍された経験談から、「男だから女だからを超えて、一歩前に踏み出しましょう」と呼びかけていました。

会場からの積極的な発言や意見の交換もあり、男女共同参画のあり方を考えるきっかけとなりました。これから、15名で構成される成東町男女共同参画推進協議会は、100組の夫婦を対象とした意識調査を実施し、活動に活かしていくとのことです。



秋冬ネギ これからの管理

病害防除

10～11月はネギの生育に最も適した季節です。草勢が低下すると病害の発生が多くなりますので、適宜追肥・土寄せをおこない、肥料切れしないように注意しましょう。1回の追肥量は窒素成分で3～6キログラムとし、生育状況や追肥間隔によって加減します。

いずれの病害も、蔓延してからでは防除が難しくなります。特に降雨の後や曇天が続いたときには、発生が多くなりますので、予防に努め、下の表を参考に薬剤散布を行ってください。

止め土

止め土後、出荷可能となるまでのおおよその日数は、10～11月収穫で30日、12月収穫で40日、1～3月収穫で50日です。したがって、出荷予定日から逆算して、軟白部が十分に確保できるよう余裕をもっておこないましょう。

主な病害の特徴と防除

病名	さび病	黒斑病	べと病
症状・特徴	オレンジ色の少し盛り上がった斑点ができる やがてこの斑点が割れて、中からさび色の粉をだす	紫色～黒色の楕円形の同心輪紋状の病斑ができる 蔓延すると病斑同士が融合して葉枯れ症状をおこす	葉に黄白色の大型病斑ができ、やがて病斑上に灰色のカビを生じる
予防	ジマンダイセン水和剤(600倍) ダイファー水和剤(400倍)		
薬剤防除 発生初期	パイレトン水和剤 ラー水和剤 ストロビーフロアブル アミスター20フロアブル カリグリーン水溶剤 サブロール水和剤 など	トモオキシラン水和剤 ポリベリン水和剤 ロブラール水和剤 ポリオキシシ AL水和剤 ストロビーフロアブル など	アリエッティ水和剤 リドミルMZ水和剤 サンドファンC水和剤 アミスター20フロアブル など

酪農家が水稲のホールクロップサイレージに挑戦

水田転作と自給飼料確保の両立をめざして

山武地域は湿田が多く、水田での転作作物の栽培がなかなか進みません。

そうした中、8月8日、松尾町の酪農家が、水稲を乳牛の飼料として利用するために、ホールクロップサイレージの収穫調整を行いました。イネの収穫調整の作業は、機械メーカーの協力により、収穫調整機械の実証試験を兼ねて行われました。

1ヘクタールに作付けされた「ふさおとめ」は、専用の収穫機により刈り取り切断され、ロール状に巻かれた形になります。その後、ラップフィルムを六重に巻きました。ロールは直径約1メートル、重さ約330キログラム。全部で81個のロールができあがりました。

このまま約50日保存するとサイレージのできあがりです。サイレージは、酪農家の飼養する乳牛に、10月頃より給与される予定です。

収穫調整の当日には、地域の酪農家や、周辺の市町村など関係機関が作業を興味深く見ていました。



ホールクロップ収穫機



ラッピングマシーン

ウメのせん定

ウメに限らず果樹のせん定には順序があり、これを守れば大失敗をすることはありません。ここでは「白加賀」を中心にそのポイントを説明します。なお、ウメのせん定は12月末までに終了させるのが理想です。

(1) せん定の前にすること

主枝・亜主枝の完成度および新しい結果枝の多少を確認します。

(2) 主枝・亜主枝の育成・強化

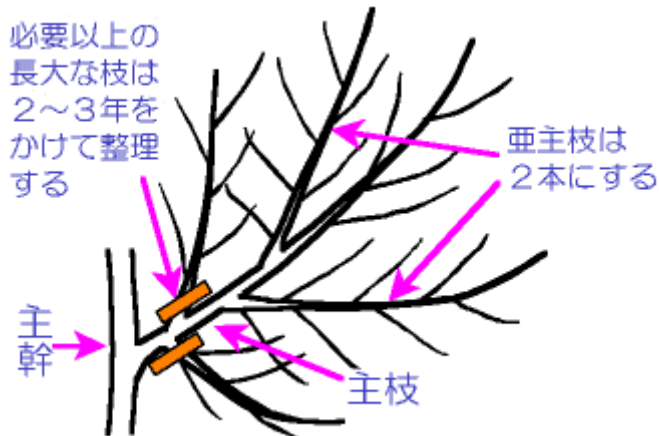
主枝・亜主枝の区別が明確に分かるように、言い換えれば主枝は3本、亜主枝は6本あればよく、それ以外の長大な枝は2～3年をかけて無くしていきます。また、主枝・亜主枝の先端は強く切り返します。

(3) 結果枝の更新

古くなった結果枝は切り落とし、1年目の短果枝が着生した結果枝に更新します。また、更新のためには1年生枝から予備枝をとり準備します。なお、結果枝、予備枝とも先端は適宜切り返します。

(4) 徒長枝の切り落とし

最後に強い徒長枝を全て基部から切り落として終了します。



落花生と新米で消費者交流 「のぎく会」

成東町富口の女性農業者5名からなる「のぎく会」は、栽培技術や農産物加工技術の習得を目的に、平成9年に誕生したグループです。

会では農業と暮らしに役立つ技術を学ぶ活動をしてきました。土壌分析を基にした施肥設計、小菊の栽培などの農業技術をはじめ、焼き肉のたれやまぜご飯の素、きな粉飴など、農家ならではの味づくりがその内容です。

今年は、消費者との交流に取り組んでいます。9月末にはゆで落花生と新米で作ったおにぎりの試食を計画しています。「人集めはどうする」、「雨が降ったらどうするの」、「参加費はいくら」、「申し込みは会長宅ね」、「お父さんにも手伝ってもらおうよ」など準備が始まっています。この行事には経営主も役割分担に加わる予定とのこと、今から楽しみです。

このように、「のぎく会」の活動は、学ぶことから実践に向かって広がっています。



第253号(2001年10月 1日発行)より
山武農業改良普及センター